

# 2016WORLD ROWING SENIOR ,UNDER23 & U19 CHAMPIONSHIPS REPORT 11 (8/25)

3日続けて素晴らしい天気にも恵まれました。昨日に引き続き素晴らしいコンディションになりました。U19は勝負の日、またU23カテゴリーは6種目中5種目がラストレースになります。シニア・U23・U19併せて10種目のレースが行われます。

## 10:00 JW4x 敗者復活

準決勝A/Bに進むためには負けることができない勝負のレース。日本はスタートから積極的に飛ばし通過ラインの2位以内を狙いレースを展開していく。500mの通過は4位ながらも1位アメリカと1.01秒の差で通過。観客席の放送でも「JAPAN」が連呼され始める。第2クォーター、日本は思い切り良くハイペースを維持し2位争いの主役の一角を演じることになりデンマーク、カナダと並びながらも1000mを2位で通過。このまま差を広げていきたいところだったが、体格に勝るカナダとデンマークが日本を抜き返しにかかってきた。必死に抵抗するものの序盤から攻め続けた影響から徐々に差が開き始める。ラストクォーター、アメリカ、カナダ、デンマークの争いが激化し日本スパート合戦に。日本はついていくことができずにここで突き放され準決勝A/Bに進むことはかなわなかった。



| STANDING 1000M |     |                          |         |
|----------------|-----|--------------------------|---------|
| 1              | USA | UNITED STATES OF AMERICA | 3:23.00 |
| 2              | JPN | JAPAN                    | +1.21   |
| 3              | DEN | DENMARK                  | +1.24   |
| 4              | CAN | CANADA                   | +1.83   |
| 5              | AUT | AUSTRIA                  | +4.20   |

ROTTERDAM, NETHERLANDS

1000m地点を2位で通過！

観客席から見える大型ビジョンでレースの途中経過が報告される。一番奥が日本クルー



日本チーム全体に勢いを与えてくれるレースを展開してくれたJW4x日本クルー

左からS松井選手（今治西高校）、3河原選手（若狭東高校）、2宇都宮選手（今治西高校）、B四方選手（朱雀高校）

## 11:00 JM4x 敗者復活

4位までが準々決勝に進むことができるレース、スタートからジョージアが脱落するが上位4か国ではしっかりレースが行われていた。日本は手を緩めることなく攻め続け1500mでは4位であったが、ラストスパートでエストニアを置き去りにし、カナダをかわして1位中国に次いで2位でゴール。堂々と準々決勝に駒を進めた。



大型ビジョンで紹介されるレースの様子。手前が日本



ラストスパートでエストニア（写真奥）を抜き去る日本



最後まで果敢に攻めた日本

左からJM4x 左からS吉田選手（加茂高校）、3江島選手（青井高校）、2石塚選手（田村高校）、B河畑選手（美方高校）



## 10:10 JM2x 敗者復活

2位までが準々決勝に進むことができるレース、日本はスタートから積極的に攻めるが日本の両サイドの4レーンチェコと2レーンブルガリアに先行を許す。500mの通過は3位。何とか逆転して2位以上に上がりたい。1000mを通過した時点で2位争いはブルガリアと日本に絞られた。第3クォーター、日本は猛然と追い上げるが、ブルガリアも前に出してくれようとはしない。ラストクォーターに入り日本がさらにペースアップするもブルガリアとの差は縮まらず3位でゴール。準々決勝進出はならなかった。

しかし、ここまでのU19カテゴリーの選手たちの体格差をものとしめない積極的なレースぶり、この後から登場するU23及びシニアカテゴリーの奮闘への流れをつくることになる。



| STANDING 1000M |     |                         | JM2X    |
|----------------|-----|-------------------------|---------|
| 1.             | CZE | MUSIL/SMOLIK            | 3:16.29 |
| 2.             | BUL | POPOV/NAYDENOV          | +2.79   |
| 3.             | JPN | SETO/TOYAMA             | +4.82   |
| 4.             | UKR | SOFIICHENKO/KULCHYTSKYI | +9.58   |
| 5.             | MAR | BOUNHAR/CHLIHI          | +25.81  |

ROTTERDAM, NETHERLANDS

1000m地点を3位で通過



1600m地点

必死に前に行くチェコ（写真手前）、ブルガリアに迫ろうとする日本



堂々としたレースを演じた日本

左からJM2x 左からS遠山選手（伏見工業高校）、B瀬戸選手（日本大学）

### **11:10 BLM1x FinalC：順位決定（13～18位）**

スタートから各国積極的に飛ばし日本もついていくも6位で通過。第2クォーターも南アフリカ、アメリカと競り合いながら進んでいく。1000mの通過は1位タイと6.34秒差の6位で通過。第3クォーター、ほぼ横一線で並んでいたアメリカ少し前に出ることに成功した。1500mは5位で通過しいよいよラストクォーターへ。ラストクォーターでもアメリカとの勝負になったが、何とか押さえて5位でゴール。最終順位は17位となった。



↑レース展開が大型ビジョンで映し出される



ラストスパートを入れる日本（手前）



必死にラストスパートをかける  
日本：古米選手  
（日本大学）



## 11:20 BLW2x FinalC：順位決定（13～18位）

スタートから抜け出したポーランド、アメリカに日本がほぼ横並びに勝負を挑む展開でレースが動き始めた。500mの通過は1位ポーランドから0.49秒差の3位。第2クォーターに入るとポーランドがスピードを伸ばし始め、アメリカがたまたらず後退するが、日本はその流れに食らいついて行き、トップ争いはポーランドの日本の一騎打ちとなり後半を迎えることになった。第3クォーター、日本は一番苦しいところでペースを維持して踏ん張るが、ポーランドもペース落ちが少ない。1500mの通過での両国の差は3.33秒差、勝負はまだわからない。ラストクォーターに入り両国ともスパートに入るが、ここまでお互い力を出し切ってきているので大きなギアチェンジはできずにゴールだけが近づいてくる。途中離れたアメリカが多少日本に近づいてはきたが問題なく対処しポーランドに続いて2位でゴール。最終順位を14位に確定した。



500m手前の様子。右奥が日本。

| STANDING 1000M |                    | BLW2X   |
|----------------|--------------------|---------|
| 1              | POL WYDRYCH/CHMARA | 3:34.88 |
| 2              | JPN KADOYA/NARUSE  | +1.82   |
| 3              | USA HOPKINS/FARRAR | +4.33   |
| 4              | TUN KRIMI/ETTAIEB  | +7.48   |
| 5              | AUT SLACH/KAUDELKA | +10.84  |

ROTTERDAM, NETHERLANDS

1000mの通過はポーランドについて2位。



必死にラストスパートを入れる日本  
左からS成瀬選手（明治大学）、B角谷選手（立教大学）



## 11:25 BLM2x FinalC：順位決定（13～18位）

本日ここまでレースをしてきたクルー同様スタートから積極的にスピードを出していく。500mの通過は1位ポーランドから1.49秒差の3位。6位のロシアまで2.45秒差に収まる熱い展開になってきた。第2クォーターに入っても各クルーの差が大きく開くことはなく混戦模様でレースが進んでいった。1000mの通過は1位ポーランドに次いで2位で通過、観客席でもJAPANが連呼されてる。第3クォーターに入ると1位ポーランドと2位アメリカが少し抜け出し、日本、チェコ、スイス、ロシアがほぼ横一線で追う展開になった。1500mの通過は3位、ここから各国がギアチェンジをはじめラストクォーターのスパート合戦が始まった。日本も懸命にスパートを入れ応戦するが最終的には3か国にかわされ6位でゴール。最終順位は18位となった。



レースを引っ張る日本（手前）

| 2016 WORLD ROWING CHAMPIONSHIPS |     |                         |
|---------------------------------|-----|-------------------------|
| STANDING 1000M                  |     |                         |
| 1                               | POR | COSTA/COSTA 3:14.93     |
| 2                               | JPN | TAKEDA/FURUTA +0.25     |
| 3                               | USA | O'BRIEN/MONTALVO +1.53  |
| 4                               | SUI | BUEHRER/MOLINO +1.89    |
| 5                               | CZE | INGER/HODRMENT +2.11    |
| 6                               | RUS | BOLOZIN/BOGDASHIN +3.39 |

1000mの通過は2位



BLM2xクルー

左からS古田選手（明治大学）、  
B武田選手（関西電力美浜）



## 12:20 BLW1x FinalB：順位決定（7～12位）

大会初日に日本の先陣を切り準決勝A/B進出を決め、日本選手団の良い流れを作ってくれた高島選手（明治大学）も今大会最後のレースを迎えることになった。スタートから切れの良い動きでレースを引っ張っていく。500mの通過は1位ルーマニアに0.61秒差で続き2位で通過。観客席の放送や大型ビジョンで「MIHARU TAKASHIMA」が何度も紹介される。第2クォーターに入るとルーマニアが頭一つ抜きんでる。続いてドイツ、日本が並ぶように続き1000mを通過。第3クォーターに入ると後続のイタリア、アメリカがじわじわと日本に迫ってきて1500mではほぼ横一線に並んだ。ラストクォーター、イタリア、アメリカと競り合い日本も必死に上げて行くが最終的にはアメリカにもかわされ5位でゴール。最終順位は11位となった。

| 2016 WORLD ROWING CHAMPIONSHIPS |                                                                                       |                   |         |
|---------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|---------|
| STANDING 1000M                  |                                                                                       | BLW1x             |         |
| 1                               |  ROU | Andreea ASOLTANEI | 3:49.72 |
| 2                               |  GER | Luisa WERNER      | +4.20   |
| 3                               |  JPN | Miharu TAKASHIMA  | +4.64   |
| 4                               |  ITA | Federica PALA     | +6.49   |
| 5                               |  ESP | Nuria BARRIOS     | +7.40   |
| 6                               |  USA | Emma BETUEL       | +10.78  |

ROTTERDAM, NETHERLANDS

1000mの通過は3位



ラストクォーターの激しいスパート合戦→  
（左から2番目が日本）

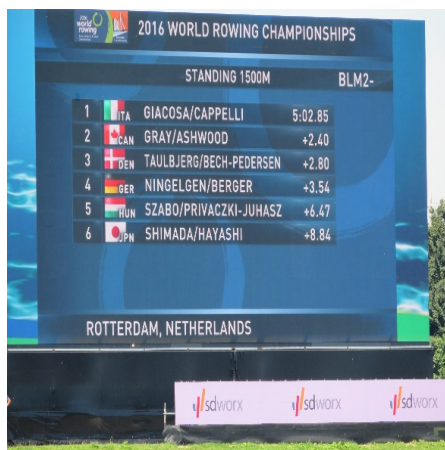


懸命にラストスパートする日  
本：高島選手（明治大学）



## 12:30 FinalB：BLM2- 順位決定（7～12位）

スタートから各国が飛ばしていき日本も必死についていこうとする苦しい出だしになった。500mの通過は1位イタリアから4.09秒差の6位。第2クォーター、ハイペースの混戦に何とかついていこうとする日本だが、少しずつ置いていかれる苦しい展開になってきた。1000mの通過は1位から6.96秒差の6位。前に行くハンガリーと共に上位4か国から少し水が空きはじめた。第3クォーターも何とか状況を打開しようと勝負を仕掛けるが差は中々詰まらずにラストクォーターを迎えることになった。ラストクォーターも必死に前に行くハンガリーを抜こうと仕掛け続けるも順位を変えることはできずに6位でゴール。最終順位は12位に確定した。



| STANDING 1500M |                            | BLM2-   |
|----------------|----------------------------|---------|
| 1              | ITA GIACOSA/CAPPELLI       | 5:02.85 |
| 2              | CAN GRAY/ASHWOOD           | +2.40   |
| 3              | DEN TAULBERG/BECH-PEDERSEN | +2.80   |
| 4              | GER NINGELGEN/BERGER       | +3.54   |
| 5              | HUN SZABO/PRIVACZKI-JUHASZ | +6.47   |
| 6              | JPN SHIMADA/HAYASHI        | +8.84   |

ROTTERDAM, NETHERLANDS

1500mを6位で通過

前に行く国を必死に追う日本→  
（右）



必死にラストスパートをかける日本：左からS林選手、  
B嶋田選手（共に日本大学）



## 15:40 LM1x 準決勝A/B

シニアJAPANの世界のAファイナルへのチャレンジが2レース続く非常に楽しみな時間を迎えた。まずは昨日の準々決勝で6分台の好記録をマークした日本代表選手のリーダー池田選手（トヨタ紡織）の挑戦だ。スタートから各国次々に前に出ようとする主導権争いの中、比較的落ち着いて好位置をキープする。500mの通過は5位ながらも1位スロバキアからは1.28秒差としっかりついていっている。第2クォーターに入ると各国がひしめきながらも少しずつ差が開いていく展開になり、日本は1位スロバキアからは少し引き離されるがレースの流れにはついていっている。第3クォーターに入り勝負の後半を迎えた。ここで照準に絞るのは3位のハンガリー、1000m通過時には1.80秒差と十分に射程圏内に入れており十分にチャンスがある。しかし、ここで上位3か国（スロバキア、スロベニア、ハンガリー）と4位以下の差が広がり難しい展開になった。ラストクォーター、日本も必死にスパートをかけるが上位の国々の鮮やかなスパートが冴えわたり結局6位でゴール。7～12位決定にまわることになった。



集中してスタートを待つ日本：池田選手  
（トヨタ紡織）



第2クォータ、果敢に攻める日本（手前）



力を振り絞る日本：  
池田選手（トヨタ紡織）

## 15:45 LM2- 準決勝A/B

続いてLM2-クルーの登場となった。序盤はイギリス、デンマーク、中国の上位3か国が決勝進出ラインの3位以上を早々に決めるかのような展開となったが、日本は落ち着いてチャンスを伺っている。1000mの通過は3位中国からは3.4秒差の6位。ここで日本クルーがギアを切り替え、まずは先行するドイツをかわして5位に浮上し1500mを5位で通過。この時点で3位中国との差は1.76秒差に縮まった。そして運命のラストクォーター、さらにギアを上げる日本。前を行くロシアをあっさりかわすと3位中国に猛然と迫っていった。中国も意地のスパートで逃げ続け観客席が大いに盛り上がる大接戦となった。ほぼ同時にゴールしたかに見えたが、僅か0.57秒差で惜しくもAファイナル進出を逃した。



出艇桟橋に向かう日本



第3クォーター、ポジションを上げて行く日本（手前）



ゴール前、3位中国（奥）との差を詰めていく日本

B小林選手（戸田中央総合病院RC）、S奈良選手（新日鐵住金）



## トレーニングの様子（8/24）



JW1x 大門選手（日田林工高校）



JW2x 左からB國元選手(唐津商業高校)、S新田選手(美方高校)



BLM4- 左からB志賀選手（日本大学）、2福井選手（東レ滋賀）、3荒川選手（一橋大学）、S佐藤選手（日本大学）



LW1x 上野選手（明治安田生命）

本日で最後のレースになったクルーもありますが、各クルー気持ちのこもった良いレースをしてきておりますので、引き続きご声援よろしくお願い致します。



選手のケアをするトレーナー陣。  
色々な方々に支えられています。

